
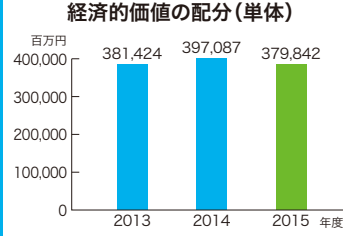
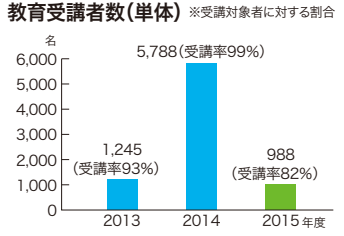
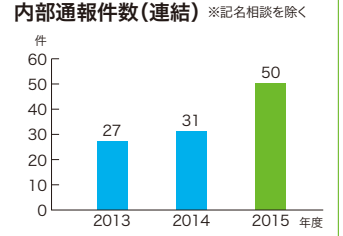
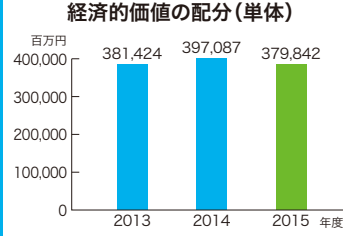
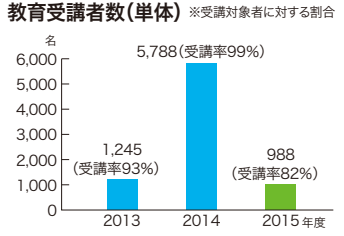
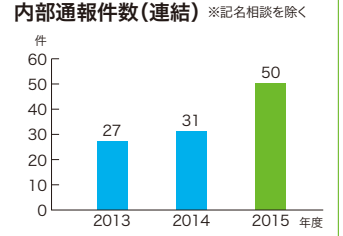
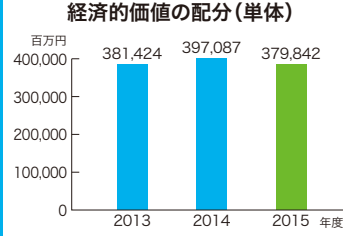
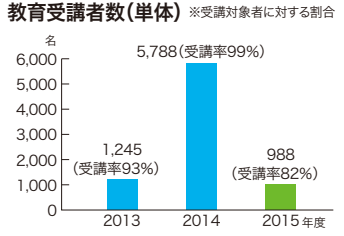
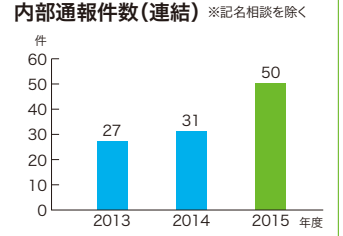

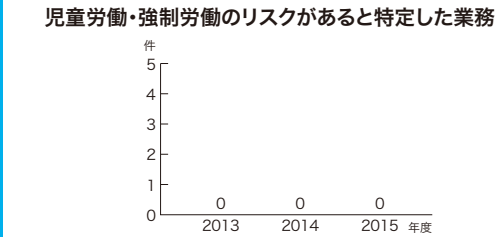
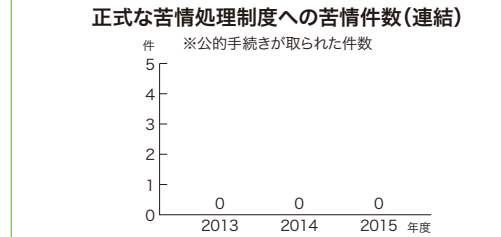
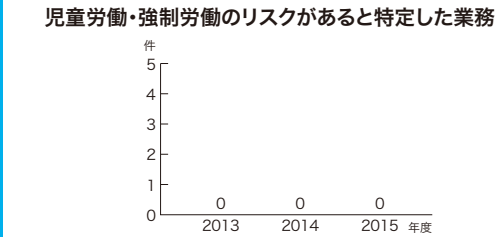
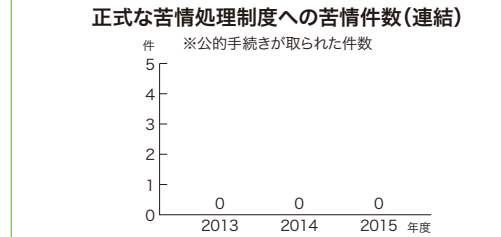
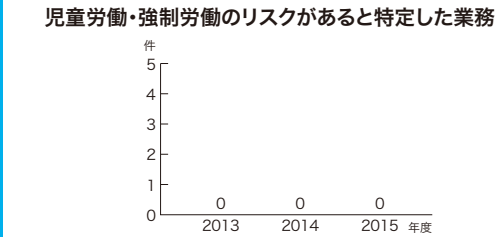
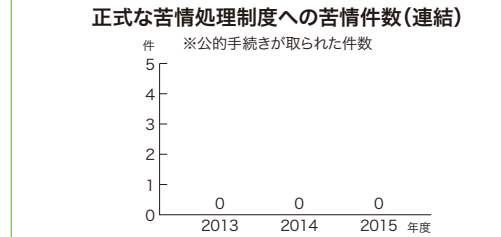

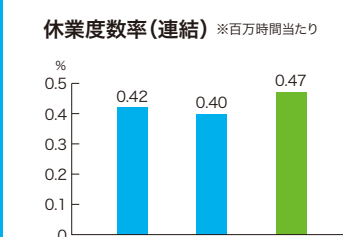
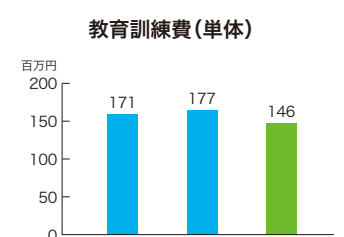
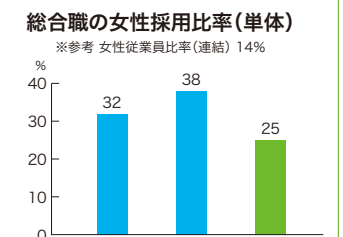
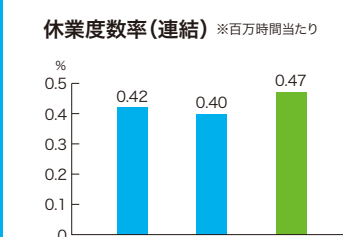
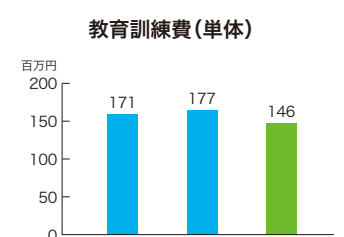
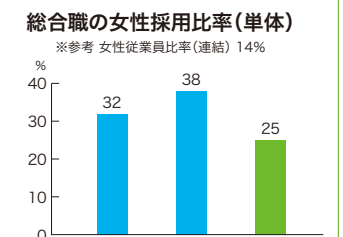
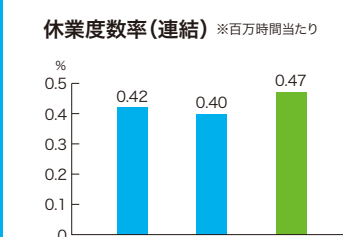
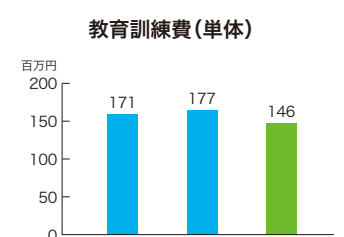
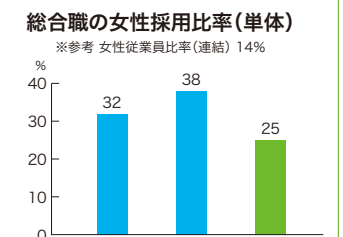



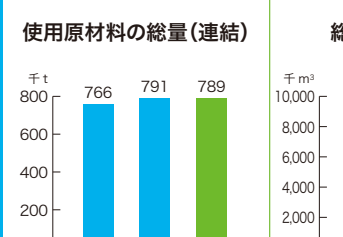
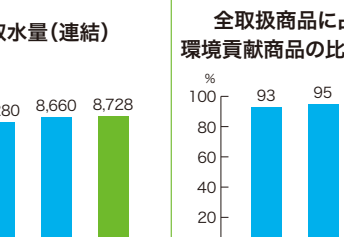
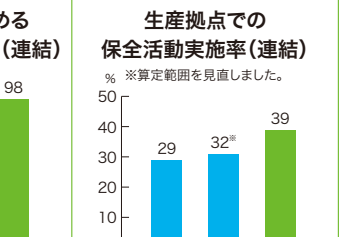
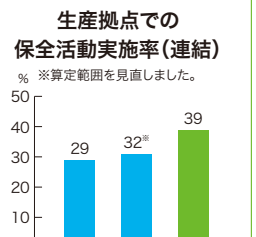
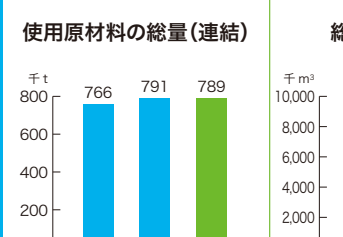
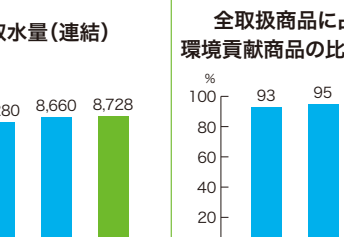
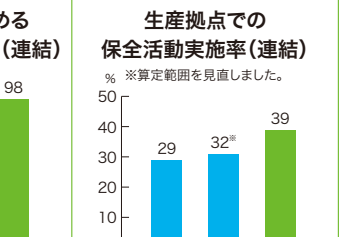
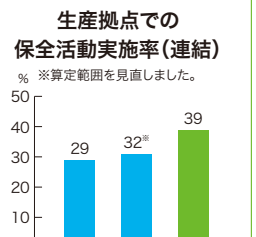
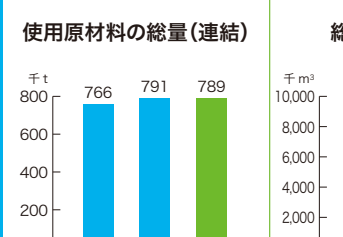
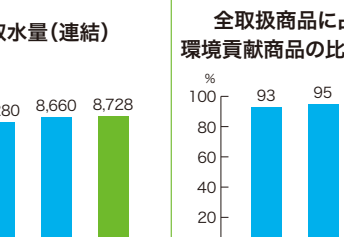
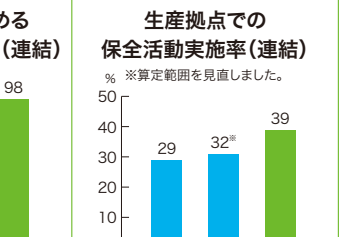
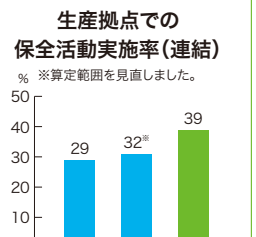
ISO26000に沿った活動報告

【自己評価基準】 ○ = 目標達成または改善が進んだ △ = 目標未達または現状維持 × = 悪化した

 <p>組織統治</p> <p>地球環境 地域社会 お客さま 株主・投資家 取引先 従業員</p>	<p>目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企業価値の継続的な向上と、すべてのステークホルダーから「ゆるぎない信頼」を得ている 						
	<p>実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>経済的パフォーマンス</th> <th>コンプライアンス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>経済的価値の配分(単体)</p>  </td> <td> <p>教育受講者数(単体) ※受講対象者に対する割合</p>  </td> </tr> <tr> <td> <p>内部通報件数(連結) ※記名相談を除く</p>  </td> <td> <p>自己評価</p> <p>○</p> </td> </tr> </tbody> </table>	経済的パフォーマンス	コンプライアンス	<p>経済的価値の配分(単体)</p> 	<p>教育受講者数(単体) ※受講対象者に対する割合</p> 	<p>内部通報件数(連結) ※記名相談を除く</p> 	<p>自己評価</p> <p>○</p>
	経済的パフォーマンス	コンプライアンス					
<p>経済的価値の配分(単体)</p> 	<p>教育受講者数(単体) ※受講対象者に対する割合</p> 						
<p>内部通報件数(連結) ※記名相談を除く</p> 	<p>自己評価</p> <p>○</p>						
<p>自己評価</p> <p>○</p>							


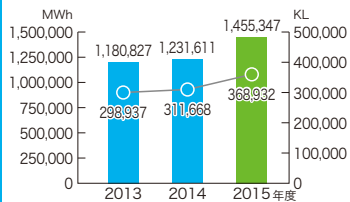
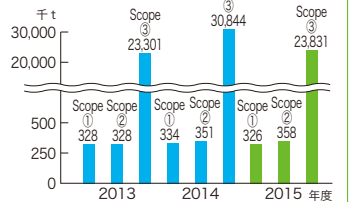
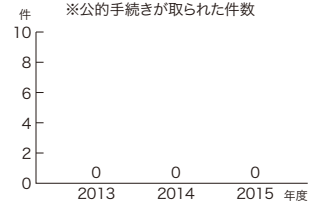
 <p>人権</p> <p>取引先 従業員</p>	<p>目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社内外を問わず人権を尊重し、自社および取引先に児童労働・強制労働がなく、人権に関する苦情に真摯に対応・改善している 						
	<p>実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童労働・強制労働</th> <th>人権に関する苦情処理制度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>児童労働・強制労働のリスクがあると特定した業務</p>  </td> <td> <p>正式な苦情処理制度への苦情件数(連結) ※公的手続きが取られた件数</p>  </td> </tr> <tr> <td> <p>自己評価</p> <p>○</p> </td> <td> <p>自己評価</p> <p>○</p> </td> </tr> </tbody> </table>	児童労働・強制労働	人権に関する苦情処理制度	<p>児童労働・強制労働のリスクがあると特定した業務</p> 	<p>正式な苦情処理制度への苦情件数(連結) ※公的手続きが取られた件数</p> 	<p>自己評価</p> <p>○</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>
	児童労働・強制労働	人権に関する苦情処理制度					
<p>児童労働・強制労働のリスクがあると特定した業務</p> 	<p>正式な苦情処理制度への苦情件数(連結) ※公的手続きが取られた件数</p> 						
<p>自己評価</p> <p>○</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>						
<p>自己評価</p> <p>○</p>							


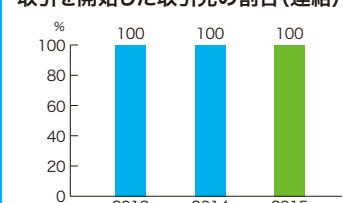
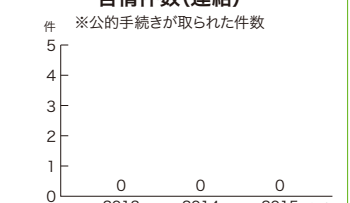
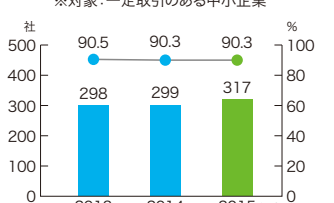
 <p>労働慣行</p> <p>取引先 従業員</p>	<p>目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢・性別・国籍など多様な人材が能力を發揮できる組織となる ● 心と体の健康づくりを推進し、危険ゼロに向けた安全文化を構築する 									
	<p>実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>労働安全衛生</th> <th>研修および教育</th> <th>多様性と機会均等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>休業度数率(連結) ※百万時間当たり</p>  </td> <td> <p>教育訓練費(単体)</p>  </td> <td> <p>総合職の女性採用比率(単体) ※参考 女性従業員比率(連結) 14%</p>  </td> </tr> <tr> <td> <p>自己評価</p> <p>△ ※社内目標未達</p> </td> <td> <p>自己評価</p> <p>○</p> </td> <td> <p>自己評価</p> <p>○</p> </td> </tr> </tbody> </table>	労働安全衛生	研修および教育	多様性と機会均等	<p>休業度数率(連結) ※百万時間当たり</p> 	<p>教育訓練費(単体)</p> 	<p>総合職の女性採用比率(単体) ※参考 女性従業員比率(連結) 14%</p> 	<p>自己評価</p> <p>△ ※社内目標未達</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>
	労働安全衛生	研修および教育	多様性と機会均等							
<p>休業度数率(連結) ※百万時間当たり</p> 	<p>教育訓練費(単体)</p> 	<p>総合職の女性採用比率(単体) ※参考 女性従業員比率(連結) 14%</p> 								
<p>自己評価</p> <p>△ ※社内目標未達</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>								
<p>自己評価</p> <p>△ ※社内目標未達</p>										


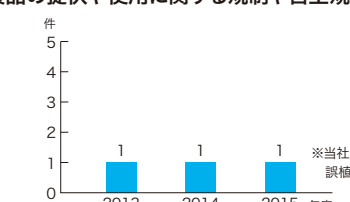
 <p>環境</p> <p>地球環境</p>	<p>目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全商品を環境貢献商品にする ● GHG排出量の総量削減(バリューチェーンで2005年比50%以上)を達成する ● 水リスクの特徴に合わせた水資源の有効利用を推進 ● 生産拠点での生物多様性保全活動の展開 												
	<p>実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原材料</th> <th>水</th> <th>製品およびサービス</th> <th>生物多様性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>使用原材料の総量(連結)</p>  </td> <td> <p>総取水量(連結)</p>  </td> <td> <p>全取扱商品に占める環境貢献商品の比率(連結)</p>  </td> <td> <p>生産拠点での保全活動実施率(連結) ※算定範囲を見直しました。</p>  </td> </tr> <tr> <td> <p>自己評価</p> <p>○</p> </td> <td> <p>自己評価</p> <p>○ ※算定範囲拡大のため</p> </td> <td> <p>自己評価</p> <p>○ 2017年度目標 100%</p> </td> <td> <p>自己評価</p> <p>○</p> </td> </tr> </tbody> </table>	原材料	水	製品およびサービス	生物多様性	<p>使用原材料の総量(連結)</p> 	<p>総取水量(連結)</p> 	<p>全取扱商品に占める環境貢献商品の比率(連結)</p> 	<p>生産拠点での保全活動実施率(連結) ※算定範囲を見直しました。</p> 	<p>自己評価</p> <p>○</p>	<p>自己評価</p> <p>○ ※算定範囲拡大のため</p>	<p>自己評価</p> <p>○ 2017年度目標 100%</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>
	原材料	水	製品およびサービス	生物多様性									
<p>使用原材料の総量(連結)</p> 	<p>総取水量(連結)</p> 	<p>全取扱商品に占める環境貢献商品の比率(連結)</p> 	<p>生産拠点での保全活動実施率(連結) ※算定範囲を見直しました。</p> 										
<p>自己評価</p> <p>○</p>	<p>自己評価</p> <p>○ ※算定範囲拡大のため</p>	<p>自己評価</p> <p>○ 2017年度目標 100%</p>	<p>自己評価</p> <p>○</p>										
<p>自己評価</p> <p>○</p>													


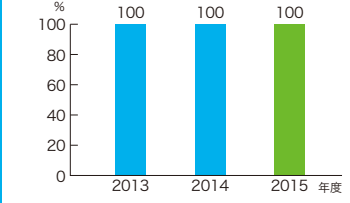
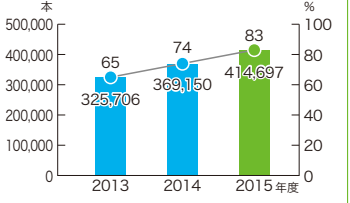
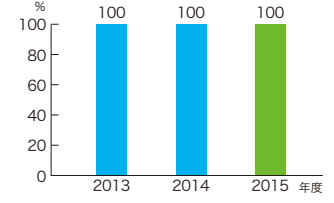
2014年度、横浜ゴムグループはステークホルダーごとに優先的に取り組む項目を選定しました。ここでは ISO26000に沿って特定した項目とその活動状況や開示要求のあるデータを報告します。なお、CSR Webサイトでは、各項目について「なぜ重要だと考えているか」背景の解説や、目標、目指す姿、2015年度の活動報告、課題と今後の施策を報告しています。

各実績についての、詳細な報告はCSR Webサイトをご覧ください <http://www.y-yokohama.com/csr/>

 環境 地球環境	実績	エネルギー 総消費量(連結) 	大気への排出 排出温室効果ガス量(連結) 	環境に関する苦情処理制度 正式な苦情処理制度への苦情件数(連結) 
	自己評価	○ ※算定範囲拡大のため	○ ※算定範囲拡大のため	○ 2016年度目標 0件

 公正な事業慣行 取引先	目指す姿	● 取引先と協業してCSR活動ができています		
	実績	取引先の環境・人権・労働慣行・社会への影響評価 影響評価を行い、取引を開始した取引先の割合(連結) 	取引先のコンプライアンス苦情(社会影響に関する苦情処理制度) 正式な苦情処理制度への苦情件数(連結) 	CSR取引先勉強会参加社数 参加社数 / 参加率(単体) 
自己評価	○ 2016年度目標 100%	○ 2016年度目標 0件	○ 2016年度目標 90%以上	

 消費者課題 お客さま	目指す姿	● 製品・サービスの利用に関する規制や自主規範の違反ゼロを達成し維持できている		
	実績	顧客の安全衛生・製品およびサービスのラベリング・コンプライアンス 製品の安全、ラベリング、製品の提供や使用に関する規制や自主規範に違反した件数(連結) 		
自己評価	△ 2016年度目標 0件			

 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展 地域社会	目指す姿	● 地域コミュニティと対話を行い、千年の杜活動(50万本の植樹)を中心に地域発展に寄与している		
	実績	地域コミュニティ 生産拠点におけるコミュニティ活動・対話実施率(連結) 	千年の杜活動の推進 年間植樹数(累計) / 達成率 	地域での存在感 最低賃金を上回る給与支払いを実施した拠点割合(連結) 
自己評価	○ 2016年度目標 100%	○ 2017年度目標 50万本	○ 2016年度目標 100%	